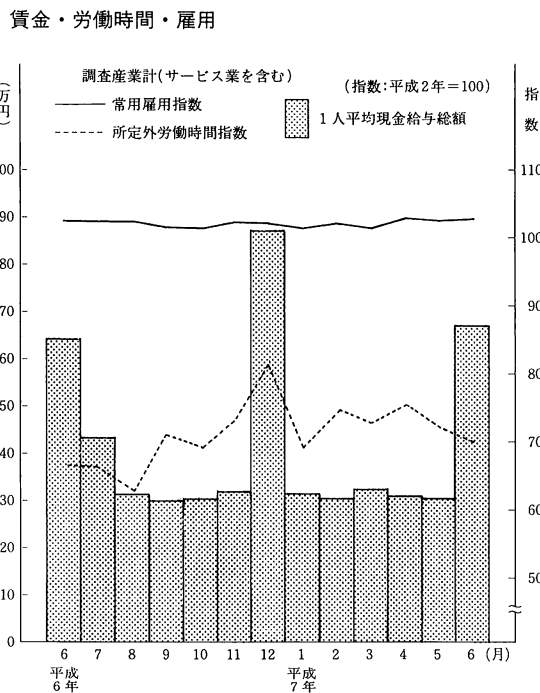
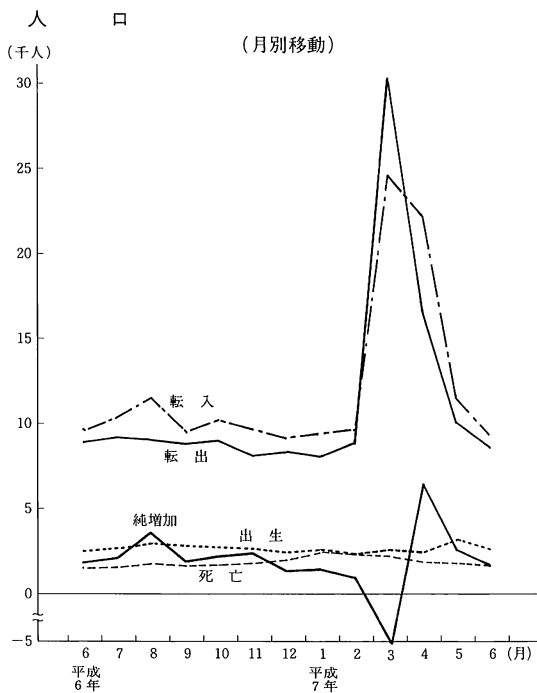
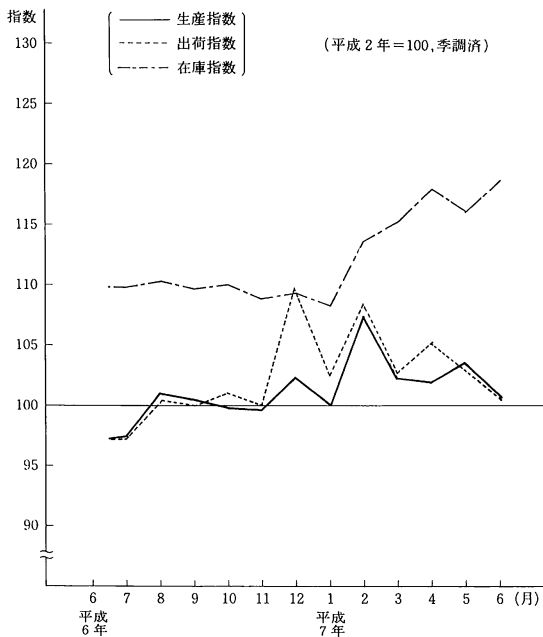


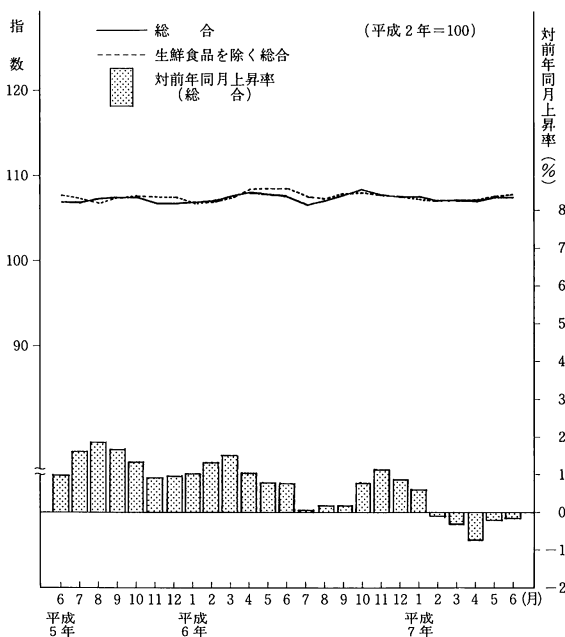
今月の主な動き



鉱工業指数 (生産・出荷・在庫)



消費者物価指数



主な動きのあらまし …………… 企画部統計課

■ 人 口 (7月1日)

本県の人口は、6月中に1,598人増加し、7月1日現在で、2,961,672人(男1,480,794人、女1,480,878人)となった。

内訳は、自然動態で896人(出生2,466人、死亡1,570人)増加し、社会動態で702人(転入9,272人、転出8,570人)増加した。前年同月と比べると19,867人(0.7%)の増加で

ある。

市町村別では、増加が10市43町村、減少が8市22町村、増減なしが1市2町である。

世帯数についても6月中に、1,315世帯増加し926,420世帯となった。

■ 賃金・労働時間・雇用 (6月)

1. 平均賃金の推移

6月の現金給与総額は、調査産業計で676,243円、対前年同月比5.0%増、このうち、きまって支給する給与は308,306円、対前年同月比3.8%増であった。また、このうち、所定内給与は281,356円、対前年同月比3.5%増であり、超過労働給与は26,950円、対前年同月比7.9%増であった。

なお、物価上昇分を差し引いた実質賃金は、対前年同月比6.2%増であった。

※ この地方調査の結果は事業所規模30人以上です。なお、事業所規模5人以上の結果についての問合せにも応じます。

2. 労働時間

6月の総実労働時間は、調査産業計で169.2時間、対前年同月比1.0%増であった。このうち、所定内労働時間は155.6時間、対前年同月比0.7%増、所定外労働時間は、13.6時間、対前年同月比4.6%増であった。

3. 雇用の動き

6月の雇用の動きを常用雇用指数によってみると、対前年同月比0.8%減であった。

■ 鉱工業指数〈生産・出荷・在庫〉 (6月)

本県における平成7年6月の“鉱工業指数”(平成2年=100)は、季節調整済指数で、生産が100.8、出荷が100.5、在庫が118.7で、前月比は、生産が2.7%の低下、出荷が2.2%の低下、在庫が1.4%の上昇であった。

前年同月比(原指数)は、生産が3.9%の上昇、出荷が3.7%の上昇、在庫が8.1%の上昇であった。

業種別に前月比をみると、生産では、鉄鋼業、化学工業、鉱業等が上昇し、石油・石炭製品工業、一般機械工業、電気機械工業等が低下した。出荷では、鉱業、繊維工業、石

油・石炭製品工業等が上昇し、窯業・土石製品工業、電気機械工業、化学工業等が低下した。在庫では、繊維工業、鉱業、その他工業等が上昇し、輸送機械工業、石油・石炭製品工業、精密機械工業等が低下した。

特殊分類別にみると、生産で耐久消費財、鉱工業用生産財が上昇し、その他用生産財、資本財等が低下した。出荷では、耐久消費財が上昇し、その他用生産財、資本財等が低下した。在庫では、建設財、資本財等が上昇し、その他用生産財、耐久消費財が低下した。

■ 消費者物価指数 (6月)

平成7年6月の茨城県消費者物価指数(県平均)は、総合で107.2(平成2年=100)となり、前月比0.1%の下落、前年同月比0.2%の下落となった。

今月の上がった主な項目……油脂・調味料3.2%、医薬品2.9%、他の家具・家事用品1.6%

今月の下がった主な項目……果物8.0%、魚介類2.7%、保健医療用品・器具1.0%

生鮮食品を除く総合は107.7となり、前月比0.1%の上昇、前年同月比0.6%の下落であった。

費目別指数

(平成2年=100)

区 分	指数	上昇率(%)		区 分	指数	上昇率(%)	
		対前月	対前年同月			対前月	対前年同月
総合	107.2	△0.1	△0.2	保健医療	102.9	0.6	△0.3
食料	105.1	△0.5	△0.3	交通通信	98.9	△0.4	△0.4
住居	116.7	0.3	1.1	教養教育	116.8	0.0	2.5
光熱・水道	102.4	△0.1	△0.3	教養娯楽	108.4	△0.5	△0.4
家具・家事用品	97.0	1.0	△3.1	諸雑費	105.2	0.2	0.7
被服及び履物	114.8	0.6	△1.7	生鮮食品を除く総合	107.7	0.1	△0.6